

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年7月16日（水）

2 確認箇所

瓦礫類一時保管エリアN（図1）

3 確認項目

瓦礫類一時保管エリアNの状況

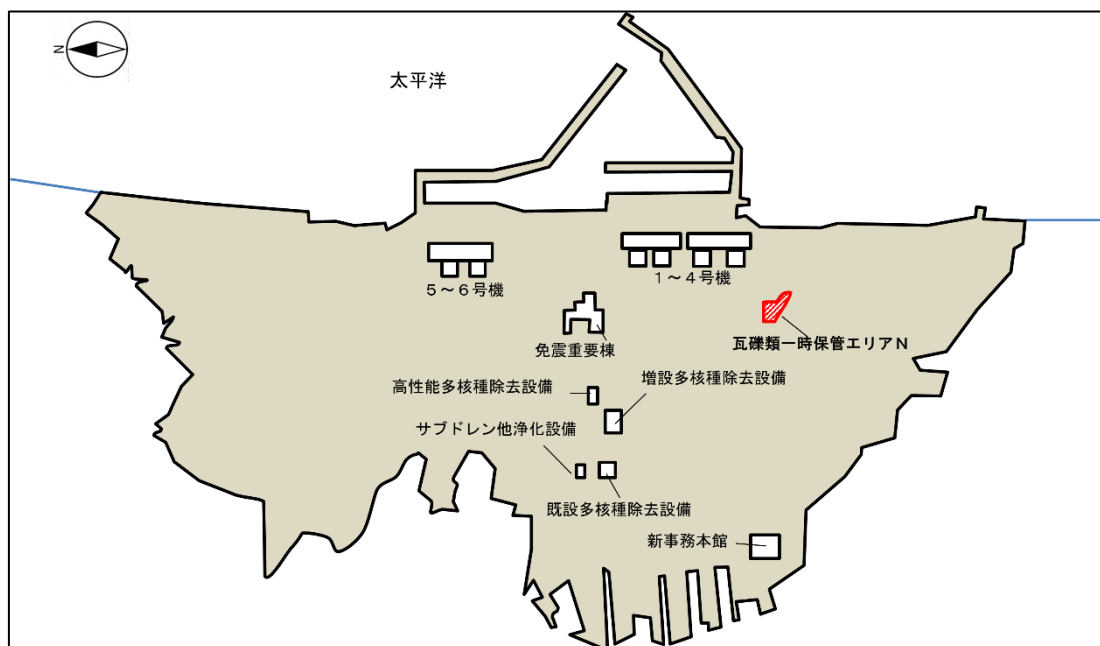
4 確認結果の概要

東京電力は水処理二次廃棄物及び再利用・再使用対象を除く全ての固体廃棄物の屋外における一時保管を令和10年度中に解消することを目指している。その一環として、瓦礫類一時保管エリアN（以下「エリアN」という。）においてノッチタンクに保管されている汚染土壌^{*}を別の保管容器に入れ替え、固体廃棄物貯蔵庫へ運搬する計画としている。

エリアNに設置された屋根の撤去が6月末から開始され、今週からノッチタンクの蓋を開放する作業が予定されていることから、当該エリアの状況を確認した。（前回確認：[令和7年7月2日](#)）

- ・エリアN南西側では、ノッチタンクから土のう袋を取り出すための準備作業として、屋根の撤去や作業床の設置が進められていた。（写真1）
- ・撤去した屋根部材を運搬するため、トレーラーへの積載作業が行われていた。玉掛け作業は、玉掛け者・合図者・玉掛け補助者が連携して実施し、安全に作業が進められていた。また、屋根部材の吊り上げ時には拡声器を用いて周囲に注意を促すなど、吊り荷下の人払いが徹底されていた。（写真2）
- ・ノッチタンクから土のう袋を取り出す作業中の空気中放射性物質濃度を監視するため、エリアN南西側にダストモニタが設置されていた。（写真3）
- ・最初に蓋を開放するノッチタンクについて表面線量率を測定したところ、約1 $\mu\text{Sv/h}$ であり、他の瓦礫類と比較して特に高い値ではなかった。（写真4）
- ・確認した範囲において、ノッチタンクからの漏えい、堰内への雨水の流入等の異常はなかった。

^{*}平成25年及び平成26年に発生したタンクエリアからの汚染水漏えいにより汚染した土壌。これらの土壌は土のう袋に回収され、ノッチタンクに入れて保管されている。



(図 1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1 - 1)
屋根の撤去状況



(写真 1 - 2)
作業床の設置状況



(写真 2)
クレーンを使った屋根部材の積載
作業の状況



(写真 3)
ダストモニタ設置状況



(写真 4)
ノッチタンク表面線量率の測定
状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。